



勇壮な動きで市民を魅了した伊勢太神楽の獅子舞

まちの話題

第7回風太郎祭

山田風太郎ゆかりの伊勢大神楽披露

養父市出身の作家、山田風太郎をたどる「第7回風太郎祭」が11月28日、同市関宮公民館ノビアホール周辺で開催されました。

午前中は関宮健康増進施設で、子どもの頃に見たと自身のエッセイにも書いている国の重要無形民俗文化財「伊勢大神楽」が披露され、この日訪れた市民ら約200人は、勇壮な獅子舞と茶わんや皿を使った曲芸に歓声をあげていました。

午後からは、同ホールで推理小説家、有栖川有栖さんが「奇想とミステリー〜山田風太郎に魅せられて」と題して講演も行われました。

養父市の産業が集合 但馬で初の「産業フェア」開催

11月21日、22日但馬初の産業イベントとなる「2009産業フェア」が養父市商工会本所周辺で開催されました。

同フェアは「養父市の企業力を市内外にアピールしよう」と商工会の呼びかけに賛同した市内の製造業者など45社が参加しました。

会場には2日間で、約4,500人が訪れ、商工会員女性部などが地元の食材を使った鍋や、ご当地グルメの「やぶからぼつやきそば」などがふるまわれました。また、出展ブースをまわるスタンプリー、レットバスの運行、丹戸地区の伝統行事「お当さん」も披露されるなど盛りだくさんのイベントで賑わいました。

お当さんに参加していた子どもたちは、できたてのお餅を口いっぱいこぼらばり「おいっしょ。」と笑顔で話しました。



産業フェアーで披露された丹戸地区伝統行事「お当さん」

旧4町観光協会が合併 やぶ市観光協会発足

養父市の旧4町ごとにあった観光協会の合併協定調印式と設立総会が11月6日、関係者など約100人が集まり、同市ビバホールで行われ、やぶ市観光協会（一ノ本達己会長）が新たに発足しました。

市内すべての観光協会が合併するのは但馬で最初となります。同観光協会は、養父市合併を受け、平成18年から合併協議を開始し今年9月に合意しました。

組織を一元化することにより、これまでの旧町の枠を越えた観光PRなどを行い、観光交流人口増加に力を入れる市との連携強化を担っていきます。



合併協定書の調印を終え広瀬市長と握手する各観光協会会長

シーズン中のにぎわいと、安全を祈って 氷ノ山・ハチ高原・東鉢伏冬山開き

スキーシーズンを前に、氷ノ山・ハチ高原・東鉢伏高原の冬山開きが12月4日、氷ノ山国際スキー場で行われました。

この日は地元関係者など約60人が参加し、神事などがあり、シーズン中の安全とにぎわいを祈願しました。

今年は、市内4つの観光協会が合併して初のスキーシーズンとなり、やぶ市観光協会の一ノ本達己会長は「このエリアだけが発展するのではなく、市内全域へと人が立ち寄ってくれるような取り組みに力を入れていきたい」と話しました。

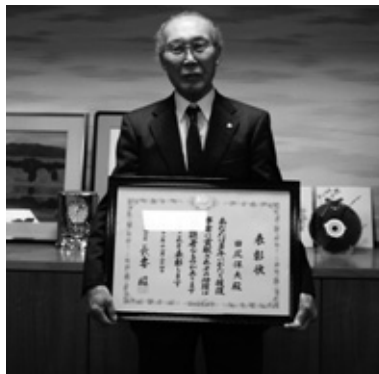


岩本毅さんが社会福祉功労者 厚生労働大臣表彰を受賞



岩本毅さん(姦崎)は、昭和58年に民生委員に就任。平成7年から9年間、地区民生委員児童委員協議会の副会長、平成16年から現在まで、同協議会の会長として地区民生委員児童委員をまとめ、組織運営に指導力を発揮するとともに、同委員の資質向上に力を注ぐなど豊富な経験を生かし、同協議会の発展に努められてきました。

田尻保夫さんが援護事業功労者 厚生労働大臣表彰を受賞



田尻保夫さん(八鹿町八鹿)は、昭和30年に兵庫県傷痍軍人会養父市部理事、平成元年からは同会理事および事務局として支部長の代理として、また、平成17年からは同会支部長として会員の動静をつねに把握、会の統率、支部の育成強化に尽力されました。

また、兵庫県民生委員児童委員連合会代議員として、同連合会の運営、発展に尽力し、民生委員児童委員活動を促進されています。

拝啓 市民の皆様

市長室から見る山々の彩りは鮮やかさを通り越し、時折吹きすさぶ木枯らしは枯れ葉を舞い上がらせています。気象庁は、今年の冬は暖冬傾向との予報を出していますが、スキー場を抱え冬山の観光が産業の要である養父市においては、降雪が待ち望まれます。

先日「とがやま学園」創立40周年記念式典と文化祭が市文化会館で盛大に開催されました。昭和45年の設立から今日まで約2千人の卒業生を送り出し、今も430名が学ぶ県内屈指の高齢者大学となつています。健康で生きがいづくりに励むことを目標に、豊富な人生経験と学園で学んだ学習成果を生かし社会貢献をする、仲間をつくり元気な老人を目指すなどの課題にそれぞれの学生が果敢に取り組んでおります。高齢化社会を先取りした先進的な取り組みが経済成長真つ只中の40年前に行われ、今日まで営々と続けられたことに驚嘆するとともに、その間発展のためご努力をいただきました多くの方々に感謝申しあげます。

高齢化が進む養父市において地域の担い手はまさしく高齢者そのものであり、その担い手を養成する高等教育機関としての「とがやま学園」への期待は大きなものがあります。当日参加された高齢者の皆さんの輝く瞳と明るい笑顔に養父市の将来に確かな手応えを感じました。今後益々のご活躍を願っております。

師走に入りあわただしさを増す今日この頃ですが、皆様には忙しさにまぎれちよつとした不注意から火災や交通事故など大きな災害に巻き込まれないようにご注意ください。よいお年をお迎え下さいませようお祈りいたします。

市長 広瀬 栄